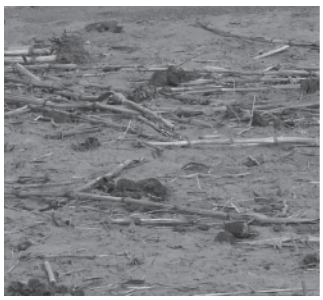
京都大学アフリカ地域研究資料センター　共催：日本アフリカ学会関西支部

ア

197
2013/07/18



リ

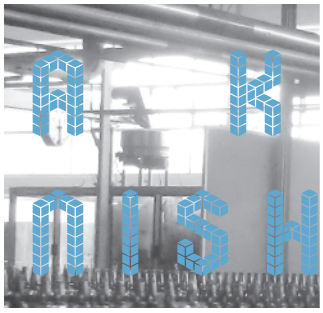
195
2013/05/30

アフリカ地域研究会

会場：京都大学稲盛財団記念館３階、大・中会議室　参加無料、申込不要

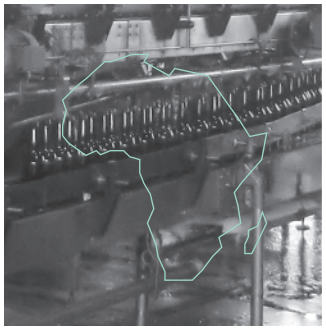
198
2013/10/17

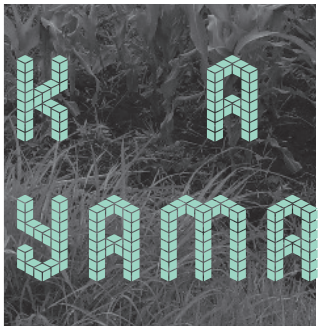
ク



196
2013/06/20

カ





お問い合わせ：電話）075-753-7803　E-mail) caas@jambo.africa.kyoto-u.ac.jp

第195回

2013年05月30日(木)
15:00〜17:00
中会議室

自然と向き合う暮らしと相互行為システムのコミュニケーション

北村 光二
岡山大学大学院
社会文化科学研究科・教授

「自然と向き合う暮らし」とは、人間の側が自然を一方的にコントロールしようとするのではなく、生き続けることを可能にする関係を作り出そうとする生き方のことであり、そのような生き方では、同じ場所に暮らす人々が日々直面する課題に、「意味」の共有を手がかりにした相互行為システムの構成による共同対処を実行しているのだと考えられる。ここでは、東アフリカ牧畜民トゥルカナの事例を中心に「相互行為システムのコミュニケーション」という概念の有効性を検討する。

アフリカに広く分布する半乾燥地では、貧困による粗放な農業によって土が荒れ、さらにそれが貧困を加速させるという悪循環が起こっているとされ、様々な支援策が講じられてきた。しかし、実を結んでいると言えそうにない。悪循環という前提が間違っているのか、支援策が有効でないのか、それともまた別の理由だろうか。ニジェール、ナミビアなどで調べてきたことを紹介し、今後あるべき土とのつきあい方をみなさんと考えてみたい。

2013年07月18日(木)
15:00〜17:00
中会議室

第197回

半乾燥熱帯アフリカの土とのつきあい方を考える

真常 仁志
京都大学大学院
地球環境学堂・准教授

H24年度京都大学
アフリカ研究出版助成記念講演
H24年度総長裁量経費
(若手研究者に係る出版助成事業)

第196回

2013年06月20日(木)
15:00〜17:00
中会議室

共有地をめぐる住民の対立
―タンザニア農村の季節湿地における耕地拡大―

山本 佳奈
京都大学大学院
アジア・アフリカ地域研究研究科
日本学術振興会特別研究員(PD)

アフリカ各地に分布する湿地の大部分は、地域住民が共同で利用する共有地として存在してきたが、近年になって耕地が拡大し、世帯ごとに囲い込まれる傾向にある。湿地の耕地化はしばしば人々の間に利害関係を生みだし争いの種にもなっている。本発表ではタンザニア農村の季節湿地で耕地が拡大した経緯と背景を示しつつ、その過程で環境利用をめぐり争いながらも現状に合った共有地のあり方を模索していく人々の姿を明らかにする。

成長する東アフリカのビール産業

西浦 昭雄
創価大学
学士過程教育機構・教授

第198回

2013年10月17日(木)
15:00〜17:00
大会議室

東アフリカのビール産業は外資系資本による内需型製造業として成長を遂げている。原料である大麦の現地調達化が推進されることで現地農業にも影響を与えており、例えば、ウガンダ最大手のウガンダ・ブルワリーズ社は6千を超える小売店を定期的に訪問するなど、きめ細かなマーケティング戦略を展開している。本発表ではビール産業を通じてアフリカ経済を理解する新しい切り口を探っていきたい。